



はんだ山の風



Contents

P2 シリーズ最先端医療 Vol.27「TAVI」 第三内科診療科群 循環器内科 特任講師 大谷 速人

P4 腫瘍センターだより「がんの遺伝医療」 ～国際的な視野で地域の皆さんに寄り添う～
臨床検査医学講座 助教/検査部 副部長/遺伝子診療部 岩泉 守哉

P6 看護部「時々入院、ほぼ在宅」切れ目のない看護を目指して
看護部長 鈴木 美恵子
副看護部長 小粥 知子
副看護部長 岩品 希和子
副看護部長 須永 訓子

P9 看護部「専門・認定看護師の活動紹介」 慢性呼吸器疾患看護認定看護師 村松 聡子
慢性疾患看護専門看護師 鈴木 智津子

P11 トリック・オア・トリート!! 4階西病棟看護師長 相曾 容貴子

P11 庄内学園からポットマムが届きました

P12 ぐるっと十全(無料シャトルバス)運行スケジュール変更のお知らせ



当院は日本医療機能
評価機構認定病院です。

発行/浜松医科大学医学部附属病院広報推進委員会
〒431-3192 浜松市東区半田山1丁目20番1号
TEL.053(435)2111(代表) FAX.053(435)2153(医事課)
Hpアドレス/ <http://www.hama-med.ac.jp/>

過去の
はんだ山の風は
こちらから



TAVI

シリーズ

最先端医療

Vol.27

第三内科診療科群 循環器内科 特任講師 大谷 速人



高齢化社会に伴い、心疾患のなかで、弁膜症、とりわけ大動脈弁狭窄症は爆発的に増加しています。重症の大動脈弁狭窄症は、胸痛、息切れ、失神などの症状を自覚した場合、数年で死に到る進行性の病気で、従来、外科的人工弁置換術が唯一の延命効果のある治療とされてきました。しかし、この病気は高齢者に多く、年齢や合併症などの理由からリスクが高いと判断され手術を断念された患者さんが少なくありませんでした。手術と同じような効果を示す新しい治療法として開発された**経カテーテル大動脈弁植え込み術 (Transcatheter Aortic Valve Implantation : TAVI)** は、手術に比べて体への負担が少ないため、このような患者さんでも治療が可能であり、海外では爆発的に症例数が増えてきています。ヨーロッパから始まり、2013年より日本でも保険償還され、当院でも2017年より施行しています。

TAVIは、胸を切開する、あるいは人工心肺使用下の心停止状態を必要とすることがないため、

外科的人工弁置換術に比べて**体へのストレスが少なく、日常生活への早期復帰が可能**になります。外科的人工弁置換術に比べ、**傷は小さく、手術時間も短い(約2時間)**です。

重症大動脈弁狭窄症に対する治療が必要ではあるが、外科的人工弁置換術による死亡率や重大な合併症が起こる可能性が高いと判断された方にTAVIが適応となります。

自力歩行が出来ないなどの体が弱った状態(「フレイル」といいます)

- ご高齢の患者さん
- 冠動脈バイパス術などの開胸手術の既往のある方
- 胸部の放射線治療の既往のある方
- 肺気腫などの呼吸器疾患のある方
- 1年以上の生存が期待できる悪性疾患を合併している方
- 免疫抑制剤を内服されている方
- その他、外科的手術がハイリスクとなるような合併症のある方



TAVI 術中の様子 心臓外科医・循環器内科医・麻酔科医・看護師・放射線技師・臨床工学技士が力をあわせて行います

高齢のために体力が低下し、またはその他の疾患などのリスクを持っているため、外科的治療を受けられない患者さんなどが対象であり、治療実施の判断には詳細な検査が必要です。TAVI前の検査として血液検査、心電図、胸部レントゲン、呼吸機能検査、血圧脈波、心臓超音波、心臓CT、心臓カテーテル検査を必須として他に全身臓器機能検査を行います。検査の結果が揃ったら、ハートチームという心臓外科医・循環器内科医を中心としたカンファレンスでTAVIが可能かどうかを相談して、決定します。

手術は**ハイブリッド手術室**という特殊な手術室で行います。ハイブリッド手術室とは、従来の胸を切開する手術と放射線透視下でのカテーテル操作による治療を併用して行う専用手術治療室のことです。カテーテル用に開発された生体弁を小さく折りたたんでカテーテルに装填し、このカテーテルを大動脈弁のところまで進め、カテーテル生体弁を広げます。カテーテルは主に鼠径部の血管から挿入します。結果的に患者さんの石の塊（石灰化）になった大動脈弁は外側に押しつけられ、カテーテル生体弁がこの外側に押しつけられた大動脈弁に引っかかり固定されます。

TAVIが終わった後は、集中治療室に入り、合併症がないかどうか経過をみます。合併症がなければ、1～2日で一般病棟へ移ります。患者さんの体の負担は極めて低いので、食事や歩行などは早期に可能となります。入院期間は2週間程度です



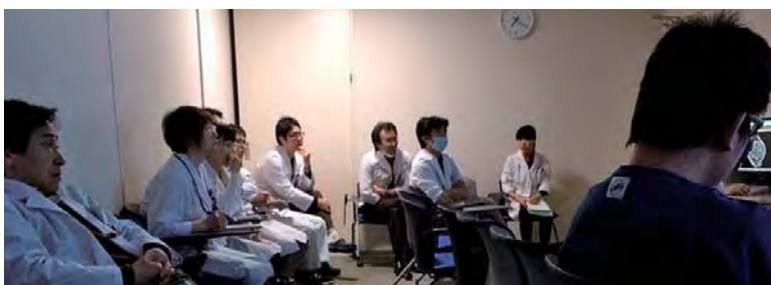
ハイブリッド手術室

胸を切開する手術と放射線透視下でのカテーテル操作による治療を併用して行う専用手術治療室です。手術室と心臓カテーテル室、それぞれ別の場所に設置されていた機器を組み合わせることによりTAVIが可能となります

が、後半の1週間は合併症の有無のための経過観察とリハビリテーションで、ゆったりと過ごして頂きます。

上記のように非常に身体への負担が少ないTAVIですが、全く問題がないというわけではありません。大動脈弁置換術では石灰化した弁尖を切除して弁輪部に糸で人工弁を縫い付けます。ところが、カテーテル的大動脈弁置換術では弁尖を切除せずに、弁尖の内側からカテーテル生体弁を広げるため、残った弁尖が心臓を栄養する血管（冠動脈）を閉塞することがあります。その他の合併症として、大動脈弁輪・基部破裂、不整脈の出現によるペースメーカー留置、カテーテル生体弁周囲逆流などがあり、これらの合併症は、大動脈弁置換術よりも起こりやすいと言われています。カテーテルによる植え込み術中に適切に弁を植え込めない場合には、胸を切開し、大動脈弁置換術を行う可能性があります。また新しい治療法のためカテーテルにより植え込まれた生体弁の5年以上の長期耐久性については不明であるという問題もあります。

TAVIに関する相談は、かかりつけの病院・クリニックから浜松医科大学附属病院の**循環器内科（大谷、前川、佐藤）、心臓血管外科の外来（椎谷、山下）**へご紹介ください。



ハートチームカンファレンス

毎週1回心臓外科医・循環器内科医を中心としたカンファレンスでTAVIが可能かどうかを相談して決定します

腫瘍センター だより

「がんの遺伝医療」 ～国際的な視野で地域の皆さんに寄り添う～

臨床検査医学講座 助教／検査部 副部長／遺伝子診療部
岩泉 守哉

がん診療での最大の目標は、「がんを治療で除去したり小さくしたりして、がんによる身体への影響を取り除く」「がんの進行を抑えることで生活の質の維持とがんによる死亡のリスクを低減させる」ことであり、「がん」に焦点があてられるのは言うまでもありません。しかしながら「うちはがん家系ではないのか?」「普通よりも若くしてがんになったのだけど」「がんに2回もなったのだけど、遺伝なのかしら」など、大切なご家族のことも心配になる方がいらっしゃるかと思います。私たちは、「がん」のこのことのみならずがんの「遺伝」のことについても悩まれている方や知りたいとお考えの方にも寄り添っていきたいと考えています。がんになった方もそのご家族の方も、がんのリスクを知った上で必要な対策をとっていただくために私たちが取り組んでいることを紹介します。

1.がんのプライマリ・ケア遺伝診療 (静岡家庭医養成プログラム、ミシガン大学家庭医療科との連携)

皆さんは「がんの遺伝」と聞いて、どのようなことを感じますか?「自分には関係ないな」とか、「何か特別なことなのだろう」と思われる方もいらっしゃるでしょう。その一方で「自分の血縁の家族にはがんになった人が多

くいて、遺伝に関係しているか心配だ」「自分は若くて大腸がんになったので、自分の子供も若くてがんになるのだろうか」と悩まれているのに、どこで相談したらよいのか分からずに過ごされている方も少なくはないと思います。そこで私たちは、静岡県中東遠地域で家庭医療を展開している静岡家庭医養成プログラムおよび連携施設のミシガン大学家庭医療科Michael D. Fetters教授と共同して、家庭医療の場からがんの遺伝医療に気軽にアプローチしていただくための診療構築や質的研究を行っています。(写真1)。



写真1 森町家庭医療センターで。左から鳴本特任助教(静岡家庭医養成プログラム責任者)、Michael D. Fetters教授、福江遺伝カウンセラー(当院遺伝子診療部)、筆者



写真2 ミシガン大学Cancer Genetics Clinicで。左からDirectorのElena Stoffel先生、筆者、John M. Carethers教授

2.がんの遺伝医療の日米比較

(ミシガン大学Cancer Genetics Clinicとの交流)

私たちは、「がんの遺伝」に悩まれている来談者に正しい情報をお伝えし、お考えやお気持ちを尊重し、長きにわたって来談者ご自身とご家族に寄り添っていきたいという思いで米国ミシガン大学Cancer Genetics Clinicと交流しています(写真2)。ミシガン大学Cancer Genetics Clinicには過去15年間で5300件以上の遺伝性腫瘍の患者さんおよびそのご家族が登録され、所属する遺伝カウンセラーや遺伝性腫瘍の専門医は近隣の家庭医や医療施設の担当医と密に連携をとっています。私たちは、このClinicに所属する複数の遺伝カウンセラーにインタビューをさせていただき、内容を分析し日米比較をする試みを行っています。保険制度や文化の違いも影響しているのかもしれませんが、このClinicに来談される90%以上の方が遺伝子検査をご希望されているとのことはお話はとても印象的でした。

3.家族性腫瘍の遺伝カウンセリング

「遺伝子検査を受けるべきかどうか」「遺伝子検査を受けた後どんなことを考えていかなくは

ならないのか」といったことについても相談したいとお考えの方がいらっしゃるかと思います。遺伝子検査についても、遺伝カウンセリングに来談された方が自ら理解され、自らの意思で遺伝子検査を受ける・受けないといった決定をされるためのサポートをしています。その中で、ご希望の方には診療として、あるいは研究として実施している遺伝性腫瘍の遺伝子検査をご紹介します。

●若くしてがんになった方

●何度もがんになった方

●がんになった血縁のご家族が複数いる方

のいずれか一つでも当てはまり、がんの遺伝について相談されたい方がいらっしゃいましたら、お気軽に当院遺伝子診療部受付までご連絡ください。その際に具体的な相談内容、がんを発症した方の情報、その他のご家族の情報などを簡単に聞かせていただきます。その後、スタッフ間での検討と担当者の調整を行い、遺伝カウンセリングの予約を決定します。

遺伝子診療部受付

受付時間：平日午前9時～午後5時

053-435-2503 (内線：2503)



「時々入院、ほぼ在宅」 切れ目のない看護を目指して

看護部長 鈴木 美恵子

看護部では理念を今年度新たにしました。「Heart 誠実と温かい心で向きあう、Art 自律した看護専門職として寄り添う、Life 尊い命とその人らしさを支える」です。これは、大学病院看護部として、患者さんの思いを大切に看護専門職として質の高い医療・看護に取り組む姿勢をより身近にと改定いたしました。

当院は高度急性期病院で、地域の医療・介護施設との連携を強化して医療機能の適切な分化・連携を進めています。平成28年度入院患者は65歳以上の割合が50%でした。在院日数も平均12日と短縮化が進んでいます。リハビリや医療処置を継続している状況で転院される方も多くいます。

「時々入院、ほぼ在宅」を推進する動きには急性

期病院から回復期・慢性期病院を経て在宅医療へと切れ目のない医療の流れが必要です。そして、患者さんのQOLを支え、自宅で安心な生活ができるためには、地域医療サービスの質を向上させることが重要です。

看護部では、他施設との連携ネットワークの拡大、高齢者看護の強化、公開教育プログラム、専門・認定看護師の地域活動、他職種とのチーム活動の5つの取り組みを進め患者さんに提供するサービスの質の向上に取り組んでいます。



連携会議で看看ネットワークを強化

医療、看護、介護の連携を推進するために「浜松および周辺地域の看護力を高め、地域住民の健康を支えるためのネットワークの構築」に取り組んでいます。当院に関連する15施設の看護代表者を昨年より開催しています。今年は8月22日に開催し、浜松市高齢者福祉課川合貴子氏より「浜松市における在宅医療・介護連携推進事業について」と三浦直子氏より「在宅連携センターつむぎについて」をご講演頂きました。行政の取り組みや在宅連携センターでの相談状況などのご説明を頂きました。行政と病院との活発な情報交換から、ケアマネジャーと医療施設との情報共有、各施設との連携における課題

や職員の確保、教育等について理解を深め、有益な情報交換の機会となりました。1病院では困難な課題も多くの病院の力を結集すれば解決することは多くあると考えます。今後は看護職だけでなく多職種とのネットワークへと広げていきたいと考えています。



大学病院の高齢者看護の質を向上

2つ目の取り組みは、高齢者看護を強化し、認知症高齢者また、術後のせん妄症状への看護に取り組んでいます。認知症看護認定看護師と看護部委員会と各病棟のリンクナースが中心となり、チーム活動を展開しはじめました。さらに、病棟に

は「認知症看護対応力向上研修」を受講した看護師を複数名配置し、筋力低下予防のための誰でもできる「らくらく体操」と患者さんの尊厳を大切に考え「抑制ゼロへの取り組み」を重点的に行っています。

らくらく体操

副看護部長 小粥 知子

入院等によるベッド上生活では、1週間で15～20%の筋力が低下するというデータが報告されています。筋力を維持するだけでなく、健康を維持するためにも身体を動かすことが大切です。私たちは、入院中の患者さんが手軽に運動できるように理学療法士と協働して「らくらく体操」を考案しました。その紹介をします。

患者さんにこの運動を毎日実施していただき筋力低下の予防につなげるためにいつでも視聴して運動ができるように、ベッドサイドのテレビで無料放映をしています。

運動は、寝たままでもできる運動、ベッドサイド

に座ってできる運動で、5分でき、いつでも何度でも自分で実施できる運動にしました。実際に体操を行った患者さんからは、「無理なくできて良かった」「自宅に戻ってからも続けたい」という言葉をいただきました。運動をすることは、筋力を維持するだけでなく、呼吸の力を整え、新陳代謝を高め、全身の回復力を高めることに有効です。看護師は、患者さんの状態に合わせて「らくらく体操」を勧めています。



テレビで体操を紹介



患者さんといっしょに「さあ、やってみましょう!」

8ページへ続く

抑制ゼロへの取り組み

副看護部長 岩品 希和子

当院に入院されている患者さんの約半数は65歳以上です。高齢患者さんが急性期病院に入院し侵襲のある治療を受けることは心身共にとても大変なことです。また高齢でなくとも急激な環境の変化に適応できず、せん妄状態になることがあります。せん妄状態になると生命に係わる大事なチューブであっても患者さんにとっては異物であり邪魔なものであるため、抜いてしまうなど治療に影響を及ぼす行動が現れることがあります。そのような場合、これまでは患者さんの安全を守る看護技術として身体抑制を行ってきましたが、最善の方法ではない、治療を遂行するためにはやむを得ないものと思っていました。

しかし同じ大学病院である金沢大学病院の「抑制をしない看護」への取り組みを知り、急性期病院でも看護の力で身体抑制が回避できると勇気づ

けられ、看護のあるべき姿を再認識致しました。

今年度の看護部の目標として、「倫理的視点を深めアセスメントにより身体拘束ゼロを目指し患者の安楽を図る」を掲げています。組織としての取り組みが始まったことにより、看護職員の抑制に対する意識改革も始まっています。看護倫理の学びを深めることで、日頃の看護を振り返り、良質な看護を提供するための取り組みにつなげている報告が各部署から聞かれるようになりました。今後もしのち・暮らし・尊厳を守り支える専門職として、目標達成に向けて限界の線を引かず丁寧に看護を行うよう頑張っていきます。



地域の看護力向上のための相互教育の場を拡大

副看護部長 須永 訓子

地域の実践能力を高めるために、施設間での相互協力のもと研修を行っています。その一つとして、当院看護師が地域の関連病院や訪問看護ステーションでの実習を行いました。研修の目的は、退院した患者さんの在宅での様子や他施設の療養環境を見学し、その理解を深めることで地域連携に活かすことです。この研修により、他施設のスタッフの方々と「顔の見える関係づくり」ができ、患者さんやそのご家族が安心して退院できるような退院支援につなげています。

また、他施設看護職員の研修として、看護提供体制（PNS）研修、他施設新人看護師研修、小児

在宅療養情報交換会認知症高齢者ケア、看護倫理などを当院で開催しています。さらに今年度は、「浜松医大病院看護研究発表会」を地域全体に拡大して開催予定です。

また、当院の専門看護師・認定看護師連絡会では、院内に限らず地域に向けて活動を拡大し、今年度は「口腔ケアの推進」「地域貢献活動」を重点的に実施しています。地域住民の方からも好評を得ています。



1 楽しく学べる健康教室を開催し地域住民を支える

慢性呼吸器疾患看護認定看護師 村松 聡子

平均寿命が年々伸びるなか、「健康寿命」が注目されています。浜松市は2014年、健康寿命第1位を獲得し、他の県に比べ、4年も健康寿命が長いことがわかりました。気候が温暖で、豊かな農林水産物があり、就労率が高く働く高齢者が多い等、浜松にはよいところがたくさんありますが、特に「やらまいか」の前向きな風土があり、はたらきものであることが、健康寿命が長い要因なのではないかと言われています。

今回、専門看護師・認定看護師連絡会は、半田山北福寿会のご依頼により、平成29年7月29日（土）半田山北公会堂で「出張健康教室」を開催しました。真夏の暑い中、29名の方にご参加いただきました。

「今日から肺炎予防一肺炎予防はお口から」を感染管理認定看護師澤木ゆかりが、現在の肺炎罹患の動向、ワクチン接種の重要性、手洗いや口腔ケアについて説明しました。

「やってみよう、始めてみよう嚥下体操—誤嚥性肺炎の予防のために—」を慢性呼吸器疾患看護

認定看護師村松聡子が、誤嚥性肺炎について説明し、誤嚥性肺炎予防の嚥下体操を参加者と一緒に行いました。



「楽しくできる認知症予防運動」を認知症看護認定看護師池本理恵が、参加者とグループになって楽しく行いました。

参加者からは、「健康増進のポイントが聞けて良かった」「肺炎球菌ワクチンを忘れないように打ちます」「できればまたお願いしたいです」との感想が聞かれました。また、「糖尿病や狭心症の予防や認知症について詳しく知りたい」などの要望がありました。

地域住民の皆さんと身体を動かし、汗をかきつつ楽しい健康教室となりました。今後も地域住民の方のご要望に沿ったテーマで、健康教室を続けていきます。ご希望の方は、いつでもご連絡ください。



認定看護師の説明で運動する半田山福寿会の方々



楽しく認知症予防運動を実施

10ページへ続く

2 多職種医療チームで関わる糖尿病患者の透析予防指導プログラムの作成

慢性疾患看護専門看護師は、全国に149名（静岡県6名）が活動しています。専門領域は慢性疾患看護ですが、特に糖尿病看護を中心に活動しています。2005年より主に外来で、糖尿病患者さんへの血糖管理指導、インスリン自己注射や血糖自己測定指導、フットケアなどや関節リウマチ、クローン病、骨粗鬆症患者さんへの自己注射指導も行っています。

現在、私は多職種医療チームでの活動を中心にしています。糖尿病透析予防診療チーム、肥満減量外科治療チーム、9月に始めた骨粗鬆症チームの活動です。

2012年から始めた糖尿病透析予防診療チームの活動を紹介します。糖尿病透析予防診療チームは、糖尿病専門医2名、腎臓内科医1名、管理栄養士5名、透析看護認定看護師1名、慢性疾患看護専門看護師1名で構成されています。糖尿病患者さんの透析移行を予防し、透析導入を遅らせるために、医師、管理栄養士、看護師が患者さんへの指導を実施します。糖尿病や合併症である糖尿病性

慢性疾患看護専門看護師 鈴木 智津子

腎症は、症状が出にくく、患者さんが理解しにくい病気です。そのため、患者さんが自己の身体の状態を理解できるように助け、身体の状態により療養を調整していく力を持てるようにしたいと考えています。

私たちのチームは1年間の指導プログラムを作成し、10名程度の患者さんに参加していただいています。カンファレンスでは、個々の患者さんにあわせて指導内容を調整しています。プログラム終了後、効果を評価し、次年度にはより効果のあるプログラムを提供しています。

プログラム終了後も参加を継続したいと希望する患者さんが増えています。今後も、「透析移行を遅らせ、HbA1c〇%下げられる指導プログラム」と言えるように、疾病管理プログラムを開発していきたいと考えています。なお、プログラムへの参加を希望される方は、主治医にご相談ください。他の相談もお受けしております。



患者さんの状況を聞きながら説明します



多職種で連携して関わっています



トリック・オア・トリート!!



4階西病棟看護師長 相曾 容貴子

10月31日（火）午後、小児科病棟に入院中の子ども達が手作りの衣装で仮装し、病院長室まで行進するハロウィンのイベントが行われました。松山病院長、岡田次長、緒方小児科教授、鈴木看護部長達がハロウィンの仮装をし、部屋を飾りつけて温かく迎えてくれました。今回初お目見えの浜松医科大学イメージキャラクターの「はんだやまっぴー」も来てくれまし

た。病気の治療のため様々な制限の中で頑張っている子ども達は、普段とは違う空間を訪れ「トリック・オア・トリート!」（ごちそうくれないといたずらしちゃうぞ）と掛け声をして、プレゼントをいただき、とても嬉しそうに笑顔を見せていました。イベントを楽しみにリハビリを頑張り、初めて小児科病棟から出かけた子どももいました。病棟に戻ってから、「病院長室は病棟とは全然違う所だったよー」とお母さんに生き生きと報告していました。とても楽しく貴重な経験ができたご家族の方達も喜んでくださいました。子ども達の元気な笑顔がみられ、病棟スタッフもとても嬉しく感じています。ご協力いただいた方々、素敵な時間をありがとうございました。



庄内学園からポットマムが届きました

10月13日（金）、庄内学園（浜松市立庄内中学校・浜松市立庄内小学校）からポットマム（西洋菊の鉢植え）が寄贈されました。毎年、寄贈いただいたポットマムは来院される患者さんやご家族の方に楽しんでいただけるよう、病院の正面玄関に飾っています。

不安定だった天気にも負けず、きれいに咲いた色とりどりの花は来院される方々

の心を和ませてくれています。庄内学園の皆さんありがとうございます。



ぐるっと十全 (無料シャトルバス) 運行スケジュール変更のお知らせ

無料シャトルバス

ぐるっと十全 時刻表

浜松医大病院 ⇒ 十全記念病院 ⇒ 浜北駅

月～金曜日

7月18日変更

浜北駅	十全記念病院	浜松医大病院	半田山	半田山中	雇用促進住宅	内野台1丁目	内野台2丁目	内野台3丁目	内野台4丁目	サンストリート	十全記念病院	浜北駅
8:48	8:55	9:10	9:12	9:13	9:17	9:18	9:19	9:20	9:21	9:24	9:27	9:37
9:37	9:55	10:10	-	-	-	-	-	-	-	-	10:25	10:35
10:35	10:55	11:10	-	-	-	-	-	-	-	-	11:25	11:35
12:05	12:15	13:10	13:12	13:13	13:17	13:18	13:19	13:20	13:21	13:24	13:27	13:37

【ぐるっと十全とは】

- ① 十全記念病院が地域の方のために運行しているシャトルバスです。
- ② 地域の方、どなたでもご利用可能です。
- ③ 乗車賃はかかりません。皆さん無料でご乗車できます。
- ④ 運行は月曜日～金曜日です。(土日祝は運休)

★場所:遠鉄バス停横



浜松医大病院



十全記念病院



土日祝及び、12/30～1/3は 運休となります

お問い合わせ

十全記念病院 ☎053-586-1115

外来診療日一覧

2017.11.1現在

受付時間 午前 8時30分～11時 一般外来・専門外来
午後 0時30分～2時 専門外来

○：午前
◆：予約のみ

休診日 土曜日および日曜日、祝日法による休日、12月29日～翌年1月3日

診療科名	診療日										備考	
	初診					再診						
	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金		
内科 受付電話 435-2632												
一般内科	初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆		
第一内科	消化器内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆		
	腎臓内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆		木曜日：午後のみ
	神経内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆		
	感染症専門外来			◆				◆				午後のみ
第二内科	肝臓内科	◆	◆		◆	◆	◆	◆	◆	◆		
	呼吸器内科	◆	◆		◆	◆	◆		◆	◆		
	禁煙外来	◆	◆		◆	◆	◆		◆	◆		
	内分泌・代謝内科	◆	◆		◆	◆	◆		◆	◆		
第三内科	血液内科	◆		◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆		
	免疫・リウマチ内科	◆		◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆		
臨床薬理内科	◆			◆	◆	◆		◆	◆		要問い合わせ	
循環器内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	火曜日：午後のみ	
ペースメーカー外来											予約のみ、要問い合わせ	
ピロリ菌外来	◆										午後のみ	
精神科神経科 受付電話 435-2635 ※平成28年5月から、初診完全予約制を実施しています。												
	初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆		
専門外来	児童思春期外来							◆				
	成人発達障害外来			◆					◆			
	摂食障害専門外来								◆	◆		
小児科 受付電話 435-2638												
	初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆		
専門外来	内分泌・遺伝		◆					◆				
	内分泌		◆					◆				
	心臓				◆	◆				◆	◆	
	血液				※	※				◆	◆	※初診は随時電話で
	免疫・アレルギー	◆			◆	◆	◆			◆	◆	
	神経	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	
	腎臓				◆					◆		
	新生児フォローアップ						◆	◆			◆	
	乳児検診	◆					◆					
	CCS外来										◆	第4週のみ
小児外科 受付電話 435-2638												
	初診・再診	◆	◆		◆		◆	◆		◆		
外科 受付電話 435-2641												
第一外科	呼吸器外科			◆					◆		◆	
	一般外科（内視鏡）	○		○		○	○		○		○	
	乳腺外科	◆	◆			◆	◆	◆			◆	
心臓血管外科	○		○		◆	○		○		◆		
外科 受付電話 435-2642												
第二外科	上部消化管外科			◆					◆			
	下部消化管外科	◆					◆					
	肝・胆・膵外科					◆					◆	
	血管外科		◆					◆				
	緩和ケア外来		◆			◆		◆			◆	
脳神経外科 受付電話 435-2644												
	初診・再診	◆	◆		◆	◆		◆		◆	◆	
整形外科 受付電話 435-2647												
専門外来	初診・再診	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	◆	
	教授外来（脊椎）	◆			◆	◆	◆			◆	◆	
	骨粗鬆症				◆	◆				◆	◆	
	リウマチ			◆	◆				◆	◆		
	手・末梢神経			◆					◆			
	脊椎	◆					◆					
	腫瘍			◆					◆			
	股関節					◆					◆	
	肩関節					◆					◆	
	膝関節・スポーツ					◆					◆	
小児整形	◆					◆						

診療科名	診療日										備考	
	初診					再診						
	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金		
皮膚科 受付電話 435-2650												
	初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆		
専門外来	アトピー外来	◆		◆			◆		◆			
	光線過敏症外来		◆					◆				
	脱毛症外来	◆		◆			◆		◆			
	乾癬外来		◆					◆				
	皮膚リンフォーマ外来				◆					◆		
	化学療法スキンケア外来				◆					◆		
泌尿器科 受付電話 435-2653												
	初診・再診	◆	◆	◆	◆		◆	◆	◆			
専門外来	腎移植外来				◆				◆			医師交代制
	排尿障害外来		◆					◆				
	不妊症外来		◆			◆		◆			◆	第1、3、4、5週のみ
	腫瘍外来		◆	◆	◆			◆	◆	◆		
眼科 受付電話 435-2656												
	初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆		火曜日：○午前のみ
専門外来	網膜変性外来		◆					◆				
	斜視・弱視外来								◆			
	ロービジョン										◆	
	角膜外来										◆	第2週のみ（月により変更あり）
耳鼻咽喉科 受付電話 435-2659												
	初診・再診	◆	◆		◆	◆	◆		◆	◆		
専門外来	腫瘍外来	◆					◆					
	耳外来				◆						◆	
	めまい外来			◆								
	耳鳴外来		◆					◆				
	難聴外来・人工内耳外来		◆					◆				
	睡眠時無呼吸・いびき外来					◆					◆	
	顔面神経外来					◆					◆	
	鼻副鼻腔・アレルギー外来				◆						◆	
産科婦人科 受付電話 435-2662 ※女性医師ご希望の方はお申し出ください												
	産科 初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆		里帰り分娩等の方は、妊娠20週までに一度受診していただき、分娩予約をお願いします
	婦人科 初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆		
専門外来	婦人科外来	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆		
	産科外来	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆		
	腹腔鏡外来		◆					◆				
	光療法外来										◆	
	母級学級							◆				第2週：前期、第4週：後期
	女性漢方外来		◆					◆				第1、2、4週のみ
A R T 室 受付電話 435-2664												
	不妊外来						◆	◆		◆	◆	
放射線科 受付電話 435-2665												
	放射線治療科 放射線治療外来	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆		
	放射線診断科 IVR外来		◆		◆			◆		◆		
麻酔科蘇生科 受付電話 435-2668												
	初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆		
リハビリテーション科 受付電話 435-2747												
	初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆		要問い合わせ
形成外科 受付電話 435-2496												
	初診・再診	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
歯科口腔外科 受付電話 435-2673												
	初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆		
専門外来	唇顎口蓋裂外来			◆					◆			）専門外来の診察日は不定期のため、歯科口腔外科外来受付にお問い合わせください
	インプラント外来		◆			◆		◆		◆		
	顎補綴			◆					◆			
	矯正歯科					◆				◆		

※市外からお電話の場合は、電話番号の前に市外局番（053）を付けてください。